

2025 年度

学校名 寿都町立寿都中学校

対象学年 2 年

① 学習指導案

プログラム	No.11「地域景観プランナーになろう」
単元名 (全7時間)	「海・歴史・未来をつなぐプロジェクト ～寿都町×札幌市～」
学習のねらい	○寿都町の海の景観の価値や地域の歴史文化（布記 注1）に関心を持ち、景観保全の意義を理解する。 ○海洋プラスチックごみ問題の原因と身近な対策（プラスチック包装の削減）を考える。 ○布記を活かしたおにぎり布袋を制作し、景観紹介チラシと共に札幌市民へ配布する活動を通して、地域の魅力と環境配慮の取り組みを伝える。 ○社会に働きかける実践的な態度を育てる。
学習内容	1 寿都町に所縁のある郷土史家の歴史講話を聞き、ニシン漁や海運、海と暮らしの関係を通して景観の背景にある歴史文化を理解する。 2 同じニシン漁にルーツを持つ江差町との比較から寿都の海の景観の特徴を学び、自分のお気に入りの景観を選ぶ。 3 寿都の景観や食べ物などの魅力と、一年次に既習の海洋プラスチックごみ問題を想起し、札幌市民に伝えるチラシを作成する。 4 海を守る具体的なアクションとして布記を用い、環境にやさしいおにぎり布袋を制作し、友だちと協力して縫い上げる。 5 札幌市で配布するためにチラシと布袋を準備し、市民に伝える説明内容を練習する。 6 札幌市で市民に布袋とチラシを配布し、活動の反応をもとに学習を振り返る。
参考資料 準備品 実施場所など	山本竜也著 『寿都歴史写真集 明治二十四年～昭和二十年』（書肆山住）2018 年 山本竜也著 『寿都歴史写真集 続（昭和 21 年～）』（書肆山住）2021 年 山本竜也著『寿都五十話：ニシン・鉄道・鉱山そして人々の記憶』（書肆山住）2014 年 古布、布ひも、ミシン、ロックミシン、裁縫セット、リッパー、アイロン

注1)「本単元では、着物などの古布を再利用し、『布記』と呼ぶ」

学習の流れ

時間	学習活動	教師の指導	評価
1	・講話を聞き、ニシン漁の歴史と寿都町の海との関わりをメモする。	・ニシン漁の写真や当時の生活資料を提示しながら講話をサポートする。 ・講師の話の重要ポイントを黒板に簡潔に整理する。 ・メモの取り方の例を示して、生徒が記録しやすい学習環境を整える。	・メモ内容。 ・共有時の発言。 ・振り返りシート。
2. 3	・江差町との比較から、風景や景観、観光スポット、食べ物などの中から自分のお気に入り	・紹介テーマの例を示し、選びやすいよう支援する。	・チラシの内容。（文章

	<ul style="list-style-type: none"> りを選び、友だちにその理由を説明する。 ・ 景観の魅力と写真の組み合わせを整理し、伝わるチラシの文章や構成を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 選んだ理由を説明できるよう、理由づくりを促す。 ・ 話し合いで意見を引き出し、比較の視点を深めるよう支援する。 ・ チラシ例を提示し、よい文章・構成のポイントを説明する。 ・ 「誰に何を伝えるか」の視点を明確にする指導を行う。 ・ 書き手の意図を問う声かけで表現改善をサポートする。 	<ul style="list-style-type: none"> の正確性・構成のわかりやすさ) ・ 推敲の記録。 ・ 友だちとの意見交換の記録。
4・5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海を守るアクションとして、プラスチック削減につながる布袋を製作する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 着物をほどこき、布記をつくる方法を体験する。 ・ 型紙に沿って、型抜きをし、裁断する。 ・ 折り目をつけ、アイロンがけをして縫いやすくする。 ・ 縫い方を段階的に示し個別に支援する。 ・ 困っている生徒へ手順の再提示や道具の使い方指導を行う。 ・ 完成後に改善視点（丈夫さ・入りやすさ・見た目）を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 型紙・裁断・縫製の正確さや丁寧さ。 ・ 作業中の姿勢。（安全・意欲・集中・協力）
6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 布袋とチラシをセットし、手渡す相手へ伝える説明を練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 説明のポイント（短く・わかりやすく・相手目線）を提示する。 ・ ロールプレイで説明の流れをモデル化する。 ・ 緊張する生徒を励まし、安心して練習できる学習環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 説明練習の内容。 ・ 振り返りシート。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 札幌市民へ布袋とチラシを配布し、反応を記録して振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 配布時の安全指導（移動・声かけ・距離感）を徹底する。 ・ 生徒が話しやすいようにサポートし自信を持たせる。 ・ 活動後の振り返りを深めるための問いかけを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返り。（自己評価） ・ 行動変容の気づきの記述。

<留意点>

○布記の布の入手はあらかじめゲストティーチャーと相談しておく。布ひもは布記から作成すると時間がかかるため、今回は既製品の布ひもをあらかじめ用意する。事前に、学校にあるミシンをゲストティーチャーに見ていただき、ボビン糸などの準備も併せてしておく。今回は、時間短縮のために、ゲストティーチャーにロックミシンを持参していただき、生徒が縫う部分を厳選する。

② 業実施報告書詳細

学校名 寿都町立寿都中学校

時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応
1時間	食堂 校内	寿都町に所縁のある郷土史家の講話を聴き、ニシン漁があった頃の寿都の写真を見ながら、道内でも4番目に人口が多い町だったこと、測候所が建てられたこと、町内に鉱山があり軽便鉄道が走っていたことなど、本町の独自性と魅力を知る。		○大正初期に2万人の人口がいたこと。行政機関も置かれ、かつては行政・政治・文化の中心であったことを知り、写真で見る景観にも興味を示していた。
2時間	教室 校内	前年度、江差町を訪れて作成したスライドの写真をもとに、寿都町のおすすめスポットや食べ物、美しい景観をPRするチラシをグループで作成する。また、本町で力を入れている御朱印めぐりで紹介されているお寺も一つ選んで内容に盛り込む。		○友だちに自分の一押しを紹介することができた。 ○昨年度と違う写真も選び、紹介文やレイアウトを意識して作成することができた。
2時間	家庭科 教室 校内	ゲストティーチャーの説明のとおりにグループに分かれ(①布をほどく、②型紙に合わせて切る、③ミシンで縫い合わせる④アイロンをかけ紐を通す)工程を分担して、布袋を作成することができた。		○家庭科で習った縫い方を想起しながら、工程に沿ってそれぞれの役割分担のとおりに活動を進めることができた。
1時間	教室 校内	配布するチラシと布袋の原稿作成をして、①相手に聞き取りやすい声量②アイコンタクトに気をつけてペアで練習をする。互いに動画を撮り合って見て改善する。 一人5枚のチラシを教室のプリンタで印刷する。		○最初は緊張していたが、コツをつかんで説明できるようになった。 ○特に自分がお薦めする理由を詳しく説明することができた。
1時間	校外 札幌の地下歩 行空間	役場から借りた幟を設置して町のPRを行い、昼食時間に談笑している人や一人で過ごす人、通行人にも声をかけて、寿都の魅力や作成物の内容を簡潔に説明し、手渡した。		○多くの方に好意的に受領いただき、生徒にとって地域の魅力を自ら発信する貴重な経験となった。

① 実施にあたり工夫した点

○ 歴史と景観を結びつけた導入の設定

郷土史家による講話を初回に配置し、寿都町の歴史や海との関わりを理解したうえで景観を捉える学習構造とした。

○ 「伝える相手」を明確にした表現指導の実施

札幌市民への発信を目的としたチラシ作成の際、例示や推敲支援を行い、「誰に・何を・どのように伝えるか」を意識させる指導を行った。

② 実施にあたり苦勞した点

○ 制作活動に伴う事前準備と時間管理の難しさ

古布の準備、ミシンや道具の整備、工程の分担など、制作に関わる環境整備に多くの時間と調整を要した。

○ 実践活動における生徒支援の負担

裁縫工程や説明練習など、技能の個人差が大きい場面では、個別支援や声かけが必要で、指導の密度が高くなった。

③ 生徒の反応

○ 地域の景観や歴史への関心の高まり

講話や当時の写真を通して、寿都町のかつての賑わいや特徴的な海の景観に強い興味を示す姿が見られた。

○ 主体的な表現活動・対話活動の広がり

チラシ作成や札幌市での配布では、自分のおすすめや町内の観光スポットや景観の魅力を積極的に説明し、相手に伝える行動に自信を持つようになった。

④ 担当教諭および担当外教諭の変化

○ 教科横断的な学習への理解と実感の深化

社会科・国語・家庭科・総合的な学習の時間を連動させる構成を通して、複数教科の学びをつなぐ意義を教職員全体で共有できるようになった。

○ 外部連携を生かした授業づくりへの意識向上

郷土史家やゲストティーチャーとの協働により、学校外の専門性を活用することで学習効果が高まることを実感し、外部連携への意欲が高まった。

⑤ 今後の課題と取り組み（思考過程と指導内容の関連付けからの留意点）

○ 学習過程のつながりを意識させる指導の強化

「知る→比較する→まとめる→つくる→伝える」という学習の流れを生徒自身が説明できるよう、活動の目的や意義を各段階で言語化させる必要がある。

○ 振り返りの深化と行動変容への接続

活動を通して得た気づきが地域理解や環境配慮の行動にどのように結びつくかを記述できるよう、振り返りの観点と問いかけを工夫することが求められる。

2025年度

学校名 寿都町立寿都中学校

対象学年 2・3年

① 学習指導案

プログラム	No.11「地域景観プランナーになろう」
単元計画（全18時間）	「景観から読み解く地域の歴史と人々の営みー寿都町の景観を通じた地域理解と発信ー」
学習のねらい	<p>○町内に残る景観を実地で観察し、その成立背景にある歴史や産業、人々のくらしの関係を理解する。</p> <p>○他地域（江差）との比較を通して、景観の構成や成り立ちの共通点・相違点に気づき、地域景観を多面的に捉える力を育成する。</p> <p>○取材活動やICTを活用した表現活動を通して、地域の魅力や価値を整理し、他者に分かりやすく伝える力を養う。</p> <p>○景観を地域資源として捉え、保存や活用といった将来の地域づくりに主体的に関わろうとする態度を育てる。</p>
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学芸員の案内による町内散策を通して、現在の景観と過去の歴史を関連付けて捉える力を育成する。 2. 練漁で栄えた建物や町並みの内覧を通して、産業の発展が地域景観や人々の生活に与えた影響を理解する。 3. 地域の人々への取材活動を通して、景観の背後にある思いや営みに気づき、地域理解を深める。 4. 写真・文章・英語表現・ICTを活用した制作および発信活動を通して、地域の魅力を多角的に表現する力を高める。
参考資料 準備品 実施場所など	<p>山本竜也著『寿都歴史写真集 明治二十四年～昭和二十年』（書肆山住）2018年</p> <p>山本竜也著『寿都歴史写真集 続（昭和21年～）』（書肆山住）2021年</p> <p>山本竜也著『寿都五十話：ニシン・鉄道・鉾山そして人々の記憶』（書肆山住）2014年</p> <p>i-Pad（4台）、MacBook、開閉式のスキャナー、カラープリンタ、コルクボード、ねじ込み式L型フック、穴開けパンチ</p> <p>校内、町内</p>

学習の流れ

時間	学習活動	教師の指導	評価
1～4	<p>事前学習・問題意識の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元の目的を知り、「景観とは何か」について意見を出し合う。 ・学芸員の講話を聴き、寿都町の歴史やニシン漁について理解する。 ・昔の写真や鳥瞰図と現在の町並みを比較する。 ・江差の町並みと寿都町を比較し、町内散策に向けた問いを立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・景観を「見た目」ではなく「歴史や人の営みと結びついたもの」として捉えられるよう問いを投げかける。 ・講話の内容が散策時の視点につながるよう要点を整理して示す。 「何が変わり、何が残っているか」に注目させ、比較の視点を明確にする。 ・共通点・相違点を整理し、問いが具体化するよう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・景観への既有認識の把握。 ・歴史的背景の理解。 ・比較の気づきの言語化。 ・設定した問いの妥当性。

5～ 7	体験的理解の深化 ・学芸員の案内による町内景観散策①を行う。 ・町内景観散策②を行い、歴史的建造物を見学する。 ・散策のふりかえりを行い、お気に入りの景観を選ぶ。	・事前に設定した観点を意識して観察するよう促す。 ・場所ごとの意味や背景を補足し、理解を深める。 ・感覚的な理由にとどまらず、背景を根拠に述べさせる。	・主体的に景観を捉えられているか。 ・景観と歴史の関連付け。 ・理由付けの具体性。
8・ 9	・カクジュウ佐藤家（ニシン御殿）を内覧する。 ・建物保存や地域の人々の関わりについて考える。	・ニシン漁が地域社会に与えた影響に着目させる。 ・「なぜ残すのか」という問いを提示し思考を深める。	・内覧後の発言・記録。 ・保存の意義の言語化。
10～ 13	調査・取材活動 ・調査・取材計画を立てる。 ・店舗や地域の人へのインタビューを行う。 ・取材内容を整理し、景観と人の思いを結びつける。 ・紹介カードに載せる内容を構成する。	・取材の目的と質問内容が対応するよう助言する。 ・相手の話を引き出す姿勢や聞き方を支援する。 ・情報の取捨選択を促し、整理の視点を示す。 ・読み手を意識した構成になるよう指導する。	・計画の具体性。 ・取材態度と記録内容。 ・内容の妥当性。 ・構成メモと見通し。
14～ 16	表現・発信活動 ・紹介カードの日本語・英文原稿を作成する。 ・パワーポイントでカード原稿を作成し、QRコードを作る。 ・カードを印刷し、ディスプレイボードを作成・掲示する。	・事実と考えを区別して書くよう指導する。 ・ICT操作を支援し、目的に合った活用を促す。 ・分類や配置に意図をもたせるよう助言する。	・内容の正確さと表現のわかりやすさ。 ・情報の整理。 ・発信意識。
17～ 18	まとめ・発表 ・発表原稿・スライド作成・音読練習 ・発表	・構成に気をつけ、事実と意見を書き分ける。 ・視覚と音声の工夫を促す。	・自信を持って発表できたか。

<留意点>

○昔の写真は著作権の関係から、著作やネットの写真ではなく、教育委員会所蔵の写真を活用する。

② 事業実施報告書詳細

学校名 寿都町立寿都中学校

時間数	場所	概要	活動記録 (写真)	対象者の反応
1～4 時間	教室 校内	<p>【事前学習・問題意識の形成】・ゲストティーチャーの講話を通して、寿都町の歴史（ニシン漁・鉄道・神社・町の形成）と景観の成立背景を学ぶ。</p> <p>・1年次に学習した江差の町並みを想起し、屋号や建物配置の共通点・相違点に着目して町内散策に向けた問いを立てる。</p> <p>・以下のコースを事前に確認し、現地で注目すべき視点を整理する。</p> <p>（散策予定コース）</p> <p>①測候所跡地</p> <p>②寿都小学校（旧自動車学校跡）</p> <p>③寿都漁港・道の駅</p> <p>④大磯商店街の火除けの防火板と屋号</p> <p>⑤矢追町（若衆が住んでいた地域・レンガ壁の遺構）</p> <p>⑥鯨漁時代のレンガ建て建物（笏谷石）</p> <p>⑦ウイズコム前（津軽藩番屋跡→運動会場跡）</p> <p>⑧寿都神社（旧社地と現在地の関係）</p> <p>⑨寿都町役場（旧寿都軽便鉄道跡）</p> <p>・昔の写真や鳥瞰図を用いて、現在の町並みとの比較を行い、「何が変わり、何が残っているのか」という視点をもたせる。</p>	     	<p>・景観は「きれい・古い」だけでなく、歴史や人の営みと結びついていくことに気づきはじめた。</p> <p>・写真と現在の風景を比べることで、実際に歩くことへの期待が高まった。</p>

<p>5～7 時間</p>	<p>町内</p>	<p>【体験的理解の深化：町内景観散策】</p> <p>概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学芸員の案内による町内景観散策①・②を実施する。 ・事前学習で立てた問いを意識しながら、建物配置、素材、屋号、町の中心の移動などに注目して観察する。 ・散策後、ふりかえりを行い、自分のお気に入りの景観を選び、その理由を歴史的背景と結びつけて整理する。 	  	<ul style="list-style-type: none"> ・袖壁・卯建、防火板などの工夫から、火災と向き合ってきた町の歴史を実感した。 ・外壁のみ残る建物や笏谷石の使用から、北前船交易と寿都のつながりを具体的に理解した。 ・神社の旧社地の話を通して、地形と人の生活の関係について現実感をもって捉えた。
<p>8・9 時間</p>	<p>カクジ ユウ佐 藤家</p>	<p>【体験的理解の深化：カクジユウ佐藤家内覧】</p> <p>概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニシン漁がもたらした富と労働の場について、建物内部の構造や生活空間から学ぶ。 ・佐藤家の由来と功績、重要文化財として保存されてきた経緯を知り、「なぜ景観を残すのか」という問いを考える。 	 	<p>対象者の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場所請負人としての地位や多角経営を通して、産業と地域社会の関係を理解した。 ・町民の協力と居住によって建物が守られていることから、景観保存が人の営みに支えられていることに気づいた。
<p>10～13 時間</p>	<p>町内・ 教室</p>	<p>【調査・取材活動】</p> <p>概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちがおすすめしたい景観・食べ物・場所について取材計画を立てる。 ・町内の店舗や施設でインタビューを行い、景観と人の思い・営みを結びつけて記録する。 ・取材内容を整理し、紹介カードに載せる内容を構成する。 	 	<p>対象者の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・店の歴史や経営の苦勞を知り、景観の裏側にある人の努力に目を向けるようになった。 ・「観光」と「暮らし」の両立について考える姿が見られた。

14~16 時	教室	<p>⑤【表現・発信活動】概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紹介カード用の日本語原稿を作成し、対応する英文を考える。 ・パワーポイントを用いてカード原盤を作成し、QRコードを生成する。 ・カードを印刷し、ディスプレイボードを作成して校内および道の駅に掲示する。 		<p>対象者の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報を簡潔にまとめる難しさを感じながらも、読み手を意識した表現を工夫した。 ・英語表現やICT操作を通して、発信手段の多様さを実感した。
17・18 時間	教室	<p>【まとめ・発表】</p> <p>概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1600字の発表原稿を作成し、学習内容・問いと答え・考えたことを整理する。 ・スライドを作成し、原稿と照合しながら発表練習を行う。 ・5分以内で発表を行い、カード掲示とあわせて学習成果を地域に発信する。 		<p>対象者の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事実と自分の考えを区別して書く力が向上した。 ・「自分の好きな景観」を、根拠をもって語れるようになった。 ・掲示を通して自信を深め、満足感と達成感が得られた。
<p>① 実施にあたり工夫した点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 事前学習と体験学習を強く結びつけた点 山本氏の講話や当時の写真、鳥瞰図を事前に提示することで、生徒が「比較する視点」をもって町内散策に臨めた。単なる見学ではなく、「過去と現在を重ねて景観を読む」学習となった。 ○ 他地域（江差）との比較を仕掛けとして組み込んだ点 1年次に学習した江差の街並みを想起させる導入を行い、共通点（屋号）や相違点（建物の集積・離散）に気づかせることで、景観を構造的に捉える思考を促した。 				
<p>② 実施にあたり苦労した点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習内容が多岐にわたり、時間配分の調整が難しかった点 街歩き、内覧、取材、カード作成、ICT活用、発表までを18時間に収めるため、各活動の深まりに差が生じやすかった。 ○ 生徒の視点を「説明」から「問い」へ転換させる点 お気に入りの景観を選ぶ段階では感覚的な理由にとどまりがちで、歴史的背景や人の営みと結びつけて言語化させる指導に工夫を要した。 				
<p>③ 生徒の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「自分の町を知らなかった」という気づきと驚き 日常的に通っていた場所に歴史的意味があることを知り、景観を見る目が変わったという反応が多く見られた。 ○ 発信することへの意欲の高まり 				

カード作りやQRコード、掲示・発表を通して、「町外の人に伝えたい」「おすすめしたい」という主体的な姿勢が育まれた。

④ 担当教諭および担当外教諭の変化

○ 地域人材と連携した授業づくりへの意識の向上

学芸員の専門的な語りが学習を深めることを実感し、外部人材を「特別な存在」ではなく「授業のパートナー」として捉えるようになった。

○ 教科横断的な視点の共有

社会科・総合的な学習・英語・ICTが自然に結びつく実践となり、担当外教諭にも「景観」を軸としたカリキュラム構想への関心が広がった。

⑤ 今後の課題と取り組み（思考過程と指導内容の関連付けからの留意点）

○ 「問い→調査→表現」の思考過程をより明確にする必要

活動ごとに「何を考え、何を明らかにするのか」を言語化し、生徒自身が思考のプロセスを自覚できるような指導設計（授業デザイン）が求められる。

○ 景観の価値を“保存・活用”の視点へ広げる指導

好き・すごいで終わらせず、「なぜ残すのか」「これからどう活かすのか」という未来志向の問いを設定し、学習を地域参画へつなげていくことが課題である。